

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600139		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム いっは		
所在地	山口県山陽小野田市住吉本町二丁目7番20号		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町受理日	平成24年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のもと、認知症となられても尊厳を大切にしている人らしい生活を送っていただけるよう、少しの可能性であっても引き出して差し上げることのできるケアに努めています。家族様とも連絡を密に持ち相談を行いながら、ご利用様が「出来ること、できそうなこと、やってみたいと思っていること」をあきらめることなく、ゆっくりと寄り添いながら行っていくことができるよう支援しております。また事業所近くには国の登録文化財の山手倶楽部(旧小野田セメント)・住吉神社・桜の名所の若山公園があり、少し足を延ばせば竜王山・きららビーチと風光明媚な場所がたくさんあります。ホーム内で生活が完結することのないよう社会資源を大いに活用し、ご利用者様の生き生きとした笑顔を引き出していくことができるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや意向を聞き、それを実現させたり、その人らしい生活を送ってもらうために、利用者の担当を決めて、笑顔で寄り添い一人ひとりを大切にしたいケアに努めておられます。運営推進会議においては、事業所の状況報告や「ひやりはつと」等を報告され、参加者の意見を受けられ、日常のケアの改善に努められるなど、会議をサービスの向上に活かしておられます。受診は事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医で受けられるよう支援され、受診時には利用者、家族と職員も同伴して症状の変化や服薬状況を説明し、家族と一緒に医師の説明や意見を聞き、事業所においては申し送りノートに記載し、全職員で共有して適切な医療が受けられるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(博愛の精神・なじみの関係・安心と親しみ・フレッシュさ・尊敬の念)をフロアに掲示し申し送り時に唱和しています。グループホーム独自の理念①私たちはいつも笑顔で利用者様に接します②利用者様の身だしなみを整えます を職員で考えました	フロアに掲示し、申し送り時に唱和して共有に努め、利用者に笑顔で接することや利用者の方の身だしなみを整える支援をすることで、その人らしさを大切に暮らし続けられるように理念の実践につながるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、隣接している「龍遊館」にて催されている喫茶店などをご利用者と利用しています。今年は地域の「住吉神社祭り」に参加を予定しています	自治会に加入し、自治会長より地域の事情や行事情報を得たり、地域の祭りの場所提供や地域の人達が経営している隣接の喫茶店に利用者と一緒に出かけて、店の従業員や地域の人と交流している。地域の住吉神社の祭りの開催準備に事業所として関わり、利用者の作品展を予定するなど、地域の一員としての付き合いが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに地域の方にも参加して頂き情報を提供しています。また相談等も随時お受けしています		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で項目について考え外部評価を受けています。反省すべきところ、改善案は職員会議などで話し合い、職員全員で確認し改善に努めています	評価の項目の何項目かを職員が各々に担当、記入し、主任がまとめている。評価の過程を通じて、研修計画の充実や応急手当などの訓練を継続的に取り組むことの必要性を話し合っている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月ごとの利用状況・ご利用者様の生活の様子・催し事など報告行い、質問・意見・助言等をいただきケアの質の向上に努めています	2地区の自治会長、地域交流館館長、家族会2人などの参加のもと、年6回開催している。職員研修、事業所の理念、介護状況、行事報告、ヒヤリハット報告などをし、意見交換している。服薬についての意見を活かしたり、安全面についての配慮から事業所入口のカーブミラーの設置に至るなど、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の担当者が参加されます。困難事例・ケアサービスを行う上での助言・指導をいただいています	市担当課とは運営推進会議において事業所の事情や利用者の状況を知ってもらう他、困難事例などの助言や相談をして課題解決のために一緒に取り組んでいる。地域包括支援センターとは成年後見制度や困難事例で連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行い、職員全員理解し身体拘束を行わないケア方法に努めています。また施錠もしない方向で取り組んでいます	身体拘束に関する指針を作成し、研修を実施している。職員は身体拘束の内容、弊害を認識して拘束をしないケアに努めている。利用者の現状、建物の構造上等から現時点では施錠しているが、家族に説明し、職員間で検討をして施錠開放に向けて努力している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての報道などを利用し、「絶対にあってはならないこと」と職員全員に確認し、また虐待を見逃すことのないよう常に連携をとっています。言葉の暴力も見逃すことのないよう留意しています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要性は職員会議などを利用し話し合っています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族様に理解していただけるよう丁寧に説明を行い、理解していただけるまで繰り返し説明させていただいてます		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の説明時に意見・苦情に対する受け付け体制の理解をしていただいています。ご家族様面会時には「何か相談・意見はございませんか？」と伺うようにしています	入居時に相談、苦情担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを周知している。運営推進会議時に運営に関する意見を聞く他、面会時や電話等で気軽に意見等を出せる機会をつくっている。服薬に関する助言等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時や、代表者が職員一人ひとりに声掛けを行い、勤務を行う上で改善してほしいことや提案はないかなどの意見を聞き、職場環境のより良い改善に努めています	月1回の職員会議時や日常業務の中で施設長、管理者、主任が意見や提案を聞く機会を設けている。夜勤回数、勤務変更、雇用条件の変更等で働きやすい環境を整えている。設備面についての安全対策の提案等を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態など一人ひとりの希望を極力取り入れ働きやすい環境に努めています。また向上心を持ち仕事にやりがいを持てるよう指導に努めています		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の際、順番に各職員が自ら調べた研修(ご利用者様のケアに関すること)を発表し、みなで勉強しています。また各種研修会への参加も呼びかけています	月1回の内部研修は研修計画を作成し、倫理、ヒヤリハット等の研修や職員が自分で調べたケアに関することを発表するなど、一人ひとりの向上心を引き出すための勉強会を行っている。外部研修は経験や段階に応じて勤務の一環として参加し、共有するなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会に参加し、勉強会や他施設との情報交換を行っています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様より、ご本人様の在宅時での生活で困っていたこと・不安に思っていたこと・要望などを十分に聞き取り、安心して生活していただけるケア方法を考え提供しています		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様・ご本人様より困っていること・不安なこと・要望などを聞き取り、その思いをしっかりと受取りご家族様と信頼関係を築けるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時での説明の際、今どんな支援が家族様・ご本人様にとって必要なかを聞き取り、その要望に沿った対応に努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でいらっしやり、よきアドバイスをいただけるご利用者様です。さりげない支援を行いながら良い関係を保っていけるよう努めています		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは常に連絡を密に取り、その時々のご利用者様の様子をお伝えし、ご家族様の力を借りながら共にご本人様を支えて行けるよう努めています		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みに方への面会など、ご家族様の許可があれば自由に行っていただいています。また職員と共に自宅へ帰ってみたいということも行っています	昔の職場の同僚、友人、知人、教え子、昔の使用人などの訪問を受け入れている。職員と一緒に自宅訪問をしたり、家族の協力を得ての盆、正月時の帰宅、年賀状、手紙の交換の支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の個性・性格を把握し、トラブルが起こることのないよう職員間の情報を密に行っています。また利用者様同士の良い関係を持つことができるよう、職員が間に入り交流が図れるよう努めています		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様よりの相談があればいつでも応じ、必要な情報の提供や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様担当を決め、担当者を主としてご利用者様の思い・要望を聞き取り、極力思いに沿った生活をさせていただく事ができるよう、職員全員の意見を聞きながらケアを統一し支援しています	入居時のアセスメントとシートに3ヶ月ごと追加記入をして活用している。利用者の担当を決めて日々の寄り添いの中で思いや暮らし方の希望、意向等の把握に努め、日常のケア中で、申し送りノートに記入し共有している。趣味としていたヨーヨーキルトが出来るようになったり、自宅に帰りたい思いを職員との自宅訪問で実現するなど、一人ひとりの思いの把握に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用されるまでの生活の様子・職歴・趣味・家族構成、利用されることになった経緯をご家族様より聞き取り、個々に沿ったサービスが行えるよう努めてます		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者担当・計画作成担当者、また必要に応じて他職員・家族様ともカンファレンス行い、今現在のご利用者様の心理状態の把握に努めています。又ご利用者様の発する言葉・行動などからも状態を把握することができるよう努めています		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者・他職員、またご家族様の意見も取り入れ今現在のご利用者様の現状に合った介護計画書の作成に努めています	利用者の意向や、趣味などやりたいこと、出来る事を把握し、家族や医療関係者、職員の意見を聞き、話し合った結果を参考にして介護計画を作成している。利用者、家族の要望や変化が生じた場合や3ヶ月に1回のモニタリングでの評価に基づいた介護計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ・日誌での毎日のケア記録、またご利用者様申し送り簿などで職員間のケアの方法を統一した支援に努めています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には自宅へ帰り家族とゆっくり過ごしたいが、その手段が用意できないご家族様のため、こちらからご利用者様を自宅へお連れし、また数時間してより迎えに行く、ということを行っています		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得て、公共施設などの利用行い、住み慣れた環境でゆっくりと心穏やかに生活できるよう支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望するかかりつけ医と常に連携し、ご本人様の小さな体調の変化も見逃すことなく適切な医療が受けられ、安心して生活していただけるよう努めています	入居時に希望を聞いて、事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。受診は症状の変化、内服状況等から必要に応じて、家族の了解を得て同伴をし、事業所での状況の説明をしたり、かかりつけ医からの意見をもらい、家族に情報を提供している。事業所においては、利用者専用の申し送りノートに記載、全職員が共有するようにしている。緊急時の対応、他科受診は事業所で支援をして家族に報告する等、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内看護師へ常にご利用者の健康状況を報告し、体調不良時には指示を得ています		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他医療機関と速やかに対応していただけるよう常に連携を保ってます。ご利用者様入院時には頻回にお見舞いに行かせていただき状況把握に努めています。退院時の受け入れも速やかに行っています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「利用者様の重度化及び看取り介護に関する指針」を説明し理解をいただいています。またご家族様の思いは時間の経過と共に変化していくということを理解し、その時々のご家族様の思いに沿った支援を行っています	看取り介護に関する指針を作成し、入居時に説明している。利用者の状況に応じ、段階的に家族、職員、医療関係者と共に話し合いをしている。職員も方針を共有し、利用者、家族の思いに添えるケアが出来るよう看取りの学習をしている。家族からの意向で医療施設へ移る支援等もするなど、安心して納得した最後が迎えられるよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりはつとが出る都度に早急に改善策を職員全員で考え、同じことが起こらないよう、また事故へとつながらないよう取り組んでいます。事故発生時には速やかに行動することができるようマニュアルを作成し、職員会議の際にも研修を行っています	「ひやりはつと」報告書に記録し、改善策を全職員がそれぞれが考えて記入し、会議で検討して、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命法を1回実施、看護師の指導を受けて意識不明、転倒のシミュレーションを実施しているが、全ての職員が応急手当等の実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、また夜間帯職員の緊急連絡網訓練も行っています	年2回消防署の協力を得て、夜間想定を含む避難訓練、避難経路、緊急連絡網の訓練、消火器の使い方などを学んでいる。地域との協力について働きかけているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者様には尊敬の念を持って丁寧に対応させていただく事ができるよう努力しています。また誇りやプライバシーを大切に、入浴時やトイレでの対応時には恥ずかしさを考慮した対応を心がけています	利用者の誇りを傷付けたり、プライバシーを損ねるものになっていないかや、排泄時や入浴時などの対応について日常的に確認をして、利用者の気持ちを大切にしたりしないケアを心がけて取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者様との会話の中から、今何を思っているのか、何か望むことはないのかを聞き取ることができるよう努力しています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間・入浴される日・入床される時間などこちらの時間、都合を優先させることなく、ご利用者様の思いを優先させていただいてます。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様と共に季節に合った服を選ぶ・髭剃り・起床時の整容などできない所を支援し行っています。また衣類に食べこぼしがあった際には速やかに更衣していただいています		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好き嫌いを把握し、また嚥下状態・口腔内の状態・義歯の使用など個々にあった食事形態で提供しています。テーブルを拭いていただく・食事の配膳、下膳などを共に行っています	食事は厨房からの配食であるが、週1回は利用者と一緒に献立を作成したり、食材の買付けや調理をしている。利用者は盛り付け、茶碗洗いなどできることを一緒に行っている。採れた野菜もメニューに入れて、楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し食事・水分量の把握に努めています。食事量の少ない方はご家族様・ご本人様より好まれる物を聞き、担当者にて用意し、少しでも食べていただくことができるよう支援しています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアをしていただくよう声掛けしています。自らできる方は行っていますが、完全にできているか確認しています。できない方は職員にて介助しています		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあった声掛け、誘導をしています。また排泄チェック表を作成し排便がきちんとあるか確認しています。紙おむつなど外せる方がいればその方向で支援しております	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを食べていただいたり、飲むヨーグルト、野菜ジュースなどを意識して取っていただく。また天気の良い日には散歩に行き、体操も毎日行っている。排泄表にて常に排便の状態を確認し便秘状態が長引くことのないよう努めています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1人ひとりゆっくり入浴できるよう個別対応行っています。また入浴されない方、できない方には足浴・手浴・全身清拭を行っています。	入浴は14時から16時の間可能であり、希望にあわせて対応をしている。入浴が本人の意思に基づいているのか、介護側の都合になっていないかなど、日常の入浴介助について職員はミーティング時に話し合いを行い、一人ひとりに応じた入浴支援に努めている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼の間・またはベッドの利用はご家族様・ご利用様の希望をお聞きしています。入床時間はご本人様の意思にて休んでいただき、空調・照明には気をつけています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の処方箋をファイルしておき、常に職員が確認できるようにしています。また服薬内容に変更があった際には他職員へ確実に申し送ることができるようご本人様の申し送りノート・口頭にて伝えています。薬袋の色分けも行っています		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水分補給時の飲み物は好まれる物を聞き用意しています。写経・ぬり絵・オセロ・トランプゲーム・編み物など、ご本人様の出来ることを支援させていただいてます	ヨーヨーキルトづくり、生け花、プランタンの花づくり、水遣り、畑づくり、お茶会、写経、ゲーム、編み物など張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごとや活躍できる場面づくりをしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・買い物・外食などご利用者様の希望を聞き、または思いをくみ取れるよう努め、ご家族様・地域の方の協力を得て外出行っています。担当者とも毎月1回外出行うことができるよう努力しています	ドライブ(焼け野海岸、季節の花見など)、甘味処への買い物、神社参り、隣接の喫茶店に出かけて地域の人々と交流したり、家族と一緒に外出、外食に出かけられるよう支援している。利用者の希望を聞いて、担当の職員と一緒に外出や散歩に月1回は出かけるなど支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	担当職員と共に外出行った際、自らお金を支払っていただくよう支援しています。管理は職員にて行っています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などご本人様に書いていただき、かけない所は介助しています。また電話の要望があった際にはいつでも電話で話が出る様に支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには常に季節感を感じていただくことができるよう、また生活空間が落ち着いた空間となるよう、手作りの物を置いたり、植物などを飾り居心地良く過ごしていただく事ができるよう工夫しています	広々とした落ち着いたフロアには、紙で作られた大きなお雛さまを飾り、食卓には利用者の手による花が活けてあり、季節を感じることができる。事業所の裏側にも家が立ち並び、赤ん坊と一緒に買い物に行く母親の姿や路傍に植えられた花々も見ることができ、懐かしさと共に、開放感のある空間で、利用者はそれぞれの気に入った場所に座り、のんびりと穏やかに過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でテレビを楽しむことができるようソファの位置を考えたり、気の合ったご利用者様同士でいつでもパズルやトランプができるよう配慮しています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵を飾ったり、ご利用者様が行事に参加された時の写真を大きく引き伸ばし飾っています。好まれる花や、動物の写真も飾っています	各居室の入り口は名札の下に季節感のある担当職員による細工や手芸があしらってある。壁には本人の顔写真、手芸品などの作品が飾っており、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。自宅に居た時のように落ち着けるということで、姉妹が同じ部屋で過ごせるよう配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーで歩行状態のあまり良くない方も何とか職員の手を借りながら移動していただく事ができています。トイレ場所の表示・居室のネームプレートにて自ら行動されるご利用者様もいらっしゃいます		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいつは

作成日： 平成 24年 7月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	全職員が利用者様の事故の際、あわてずに初期対応が出来る様になる	毎月のミーティング時に、日常起こりうる可能性の高い事故から順次、全職員が初期対応ができるよう繰り返し研修を行う	1年
2	36	地域との協力体制の構築	災害発生時、速やかに利用者様の避難を行うことが出来るよう、施設内のどこに利用者様が泊まっていられるか、寝たきり・歩けない方の避難方法はどのようにするのかを施設職員にて検討する。そのことを自治会長を通じて協力していただける地域住民の方に伝え、実際に避難訓練を行っていく	避難訓練を行う際、協力して下さる地域の方にも参加していただける様お願いし、職員が利用者様に扮して(方麻痺の方、寝たきりの方等)実際に避難誘導していただく。その際、出火場所を毎回変更し、どの経路でどのように避難する方法が一番安全で利用者様に負担がかからないかを実践する	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。